

フリーライターの仕事やりますつと請け負ったら 仕事ができるまで夜も眠らずに頑張りました。

高野てるみさん

たかのてるみ 企画会社T・P・O 巴里映画社代表取締役プロデューサー

美大のノリのファッションは印象に残りやすかった。



ピンク(旧・平凡出版)をか
わきりに、スタジオボイス、ア
ンアンなどでファッションや音
楽関係のフリーライターとして
活躍。本を見て、これやりたい
と思ったら、編集長に電話して
会ってもらおう、という方法で一
方的に面接。ライターとしての
自信も少しずつきだした頃。

自信がいたら直接編集長に売りこんだ。

美大を卒業してから、日刊自
動車新聞社に入社。記者として
の仕事のいろはを学ぶ。新聞社
でも美大の時とほとんど同じパ
ンタロンにアクセサリージャラ
ジャラつけてというファッション
は変えず。ファッション派手

でも仕事は完璧。優等生で通し
25歳で退社。当時雑誌アンアン
に憧れ、いつかはアンアンで仕
事をしたい、と思いつつ、PR
誌業界誌でフリーライターの仕
事を始める。得意分野はファッ
ション、音楽だった。

葉書ひとつにも仕事のきつかけがあるかもしれない。

テルミ・プロジェクト・オフ
イス(T・P・O)と名付けた現在
の会社の、年賀状、事務所転居
通知葉書

「この年賀状を見て、仕事をく
れる人が必ず何人かいるんです」
イラスト、写真、レイアウト、
全てに売り込み精神が盛り込ま

あたっては、電話番号にだって
こだわった。
「いい仕事をしたから、いい
番号が欲しいんです、ってNT
Tに頼みこんだわけです」
で、葉書には、
「何と覚えやすい番号でありま
すよ」と切りとって保存くださ



帽子は第一印象に絶大な効果あり。



自分で見つけて売りこむことの醍醐味を知ったのは、この仕事。

「朝、新聞を読んでいて、目に
とまったのがシヨパンコンク
ールに、レザーパンツをはいた、
髪の赤い男の子が優勝したとい
う記事。すごく面白そうだと思

うし……」
このピアニスト、I・ポゴレ
リッチの話題を誰かに伝えず
はいられない。早速、スタジオ
ボイス、アンアン、マリクレ
ール各誌に持ちこんで誌面に取り
あげてもらおう約束をとりつけた。
今でも忘れられない記事だ。

その他にも、対談の取材願
いの連絡とり、取材、入稿、を丸
二日でごなすという非常に苦し
い仕事などもやってのけた。

「どんな仕事でも、とにかく、
やります。と言って、寝ないで
頑張ったわけです」

バリバリしてそうだけど、ど
うかなあと云っていた編集者に
も次第に頼られるようになる。

24時間レストランで夜中に原稿を書い
ていて酔っぱらいにからかわれた。
「仕事してるんだから邪魔しないで」
ケンカだって辞さなかつた。